

世 界 史

(問 題)

2026年度

〈R08203412〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	<input checked="" type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
8. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

2025年は、日本が連合国に降伏した1945年から80年を迎えた。一方、日本で終戦の日とされる8月15日は、朝鮮では「光がもどる」、「失った主権を取り戻した」ことを意味する「光復」と呼ばれる。日本の敗戦によって長年の日本による植民地支配から朝鮮は解放された。しかし、「光復」の後も朝鮮の苦難の歴史は続いた。

連合国側は、朝鮮総督府^aを廃止し、朝鮮半島の北緯38度線を境として分割統治を行うことを決定した。南部にアメリカ軍、北部にソ連軍が進駐した。これは、第二次世界大戦後における米ソの陣営対立が関係しており、アメリカもソ連も相手陣営の影響が朝鮮半島全域に及ぶことを嫌ったのである。両陣営の対立が朝鮮半島の南北分断を生み出したといえる。両陣営の対立はおさまることなく、1948年、南部には大韓民国^b（韓国）が、北部には朝鮮民主主義人民共和国^c（北朝鮮）が成立した。

1950年6月25日、北朝鮮が武力での南北統一をめざして韓国に侵攻し、朝鮮戦争^dがはじまった。東西対立の冷戦の最前線として、朝鮮半島が戦場となったのである。当初は、北朝鮮軍が優勢であったが、アメリカ軍を中心とする国連軍が仁川上陸作戦に成功し、戦況を逆転させた。国連軍が中国国境に迫ると、中国軍が義勇軍として参戦^eしたことによって、ふたたび両軍は38度線付近で対峙することとなり、膠着状態に陥った。1953年に（あ）で休戦協定が結ばれ、朝鮮半島の分断が固定化され、現在に至るまで戦争状態は終結していない。

休戦後、韓国は戦争による荒廃で食料不足に陥り、その後の経済復興も順調ではなかった。李承晩大統領は、反共を国是とし、自身の権力を強化して独裁体制を築く。しかし、1960年の不正選挙で全国にデモが拡大して退陣した。韓国では、これを「四月学生革命」と呼ぶ。

その後一時的に民主的な政権が成立するものの、軍人の朴正熙^fがクーデタによって政権を掌握した。朴正熙は大統領となり、「漢江の奇跡」と呼ばれる経済成長を成し遂げ、1979年に暗殺されるまで独裁体制を維持した。1980年代も全斗煥ら軍部による独裁が続く、民衆を弾圧する動きは続いた。しかし、1987年に政府は民主化運動^gの高まりを受けて「民主化宣言」を発表し、現在まで続く韓国の民主主義体制がスタートした。

一方の北朝鮮では、首相の金日成が工業化によって戦争からの復興を進めた。同時に反対派を粛清することで独裁体制を築き、1972年には憲法を改正して国家主席となった。その絶大な権力は、金日成の子孫^hにうけつがれた。現在、北朝鮮をめぐる軍事的緊張、人権問題、国際的な孤立などが東アジアの政治課題として残されている。

設問1 下線部 a に関し、この機関が設置されていた期間の出来事として明白な誤りを含む文章を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 日本は朝鮮総督府を京城に設置して、当初は強権的な武断政治を行った。
- ② 朝鮮総督府の初代総督となった伊藤博文は、ハルビンで安重根に暗殺された。
- ③ 三・一独立運動後、朝鮮総督府は朝鮮人の言論・集会活動の統制を緩和するなどの政策を行った。
- ④ 日中戦争が始まると、戦争への動員のため「創氏改名」などの皇民化政策が進められた。

設問2 下線部 b に関し、次のA～Dの出来事を古いものから新しいものへ時代順に並べたとき、適切な順序のものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- A 直接選挙制で盧泰愚が大統領に選出された。
- B 金大中大統領が北朝鮮に融和的な太陽政策を推進した。
- C 国際連合に北朝鮮とともに加盟した。
- D 光州で民主化運動が発生したが、軍部によって弾圧された。

- ① C → B → A → D ② D → A → C → B
- ③ A → C → D → B ④ C → D → B → A

設問3 下線部 c は、1972年に正式に平壤を首都とした。この平壤に王都をおいた王朝を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 高句麗 ② 百済 ③ 新羅 ④ 渤海

設問4 下線部 d に関して述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① アメリカ軍が朝鮮半島に派遣されるのにあわせて、日本では警察予備隊が設置された。
② 北朝鮮軍は韓国首都のソウルを陥落させ、朝鮮半島東南端の釜山に迫った。
③ 日本は国連軍向けの軍需物資などの特需によって戦後復興を成し遂げた。
④ 国連安全保障理事会は、全常任理事国の一致で北朝鮮の行動を侵略とみなした。

設問5 下線部 e に関し、古代から近世までの中国と朝鮮の関係についての説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 漢の武帝は、衛氏朝鮮を滅ぼして安東都護府を設置した。
② 日本の援軍を受け入れた新羅は、白村江で唐と百済の連合軍に勝利した。
③ 高麗は、北宋だけではなく遼や金にも朝貢したことがあった。
④ 明の朝貢国となったことに反発した朝鮮では、自らこそ中国文化の継承者とする「小中華」意識が高まった。

設問6 空欄 (あ) に入る地名として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 周口店 ② ジュネーヴ ③ ハノイ ④ 板門店

設問7 下線部 f の人物はかつて満洲国軍に所属していた。満洲国に関する説明として、明白な誤りを含むものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 柳条湖事件の調査のために国際連盟はリットン調査団を派遣した。
② 関東軍が溥儀を皇帝に擁立して満洲国を建国させた。
③ 国際連盟は満洲国を承認しなかったため、日本は国際連盟脱退を通告した。
④ 満洲国では、漢・満洲・蒙古・朝鮮・日本民族の協調がスローガンとしてかけられた。

設問8 下線部 g に関し、世界の民主化を求める出来事を古いものから新しいものへ時代順に並べたとき、適切な順序のものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- A ハンガリーで民主化とソ連圏からの離脱を求める大衆運動が起こったが、ソ連の軍事介入で弾圧された。
B アウン=サン=スーチーのもとミャンマーで民政が復活したが、クーデタでふたたび軍政となった。
C チェコスロヴァキアで民主化を求める市民運動が起こり、共産党第一書記のドブチェックが自由化を推進した。
D 胡耀邦の死をきっかけとして、中国で学生や知識人が天安門広場に集まり民主化を要求した。

- ① A → D → B → C ② C → D → A → B
③ D → B → C → A ④ A → C → D → B

設問9 下線部 h に関し、北朝鮮の情勢の説明として明白な誤りを含むものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① ソ連が消滅したのち、農工業生産が低迷して食糧危機に直面した。
② 核拡散防止条約からの離脱を宣言し、核実験を行った。
③ アジア通貨危機によって、金日成の経済改革は失敗した。
④ 2000年に南北朝鮮の首脳による会談がはじめて実現した。

Ⅱ 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

各構成員が1票を投じ、多くの票を得た者を自らの集団の代表者とする。このようなことは、国レベルでも市町村区レベルでも行われる。思い返せば、小学校で学級委員を選出する際もそうであった。我々は子どもの頃から、こうした制度に馴染んできたといえる。このように、代表者を選ぶことはもちろん、集団の決定を構成員自らが行うことを、ここでは民主主義と呼んでみよう。

民主主義という視点から世界史を眺めてみると、その起源は古代ギリシアへ遡る。古代ギリシア、特にアテネでは、現代とは異なる形ではあるものの、政治的な決定を王や貴族に委ねるのではなく、市民の集議、そして多数決によって決定していた。このようなアテネ民主政は、紀元前5世紀の半ばごろに完成したとされている。また、指導者が独裁者や僭主である場合に備え、陶片追放というシステムが導入されていたことは見逃せないが、あわせて、陶片追放は最終的に政争の具となってしまったことも押さえるべきであろう。

もっとも、アテネの民主政は現代と様相が異なるのもまた事実である。例えば、アテネではすべての者に政治に参加する権利が与えられていたわけではない。また、アテネをはじめとしたポリスにおいては、もともとは貴族が平民を支配する形がとられていたと思われるが、ペルシアとの戦争をはじめ、平民が国防を担ったために、その政治的な発言力が大きくなった、といわれる。すると、国防を担うからこそ政治に口出しできる、という関係も浮かび上がるが、現代ではこれらは完全に切り離されている。

また、世界史を眺めれば、民主主義が繁栄を約束してくれるとは言い切れないのも難しいところである。例えば、古代ギリシアの諸ポリスは、最終的に、ポリスを作らず王政を採用していたマケドニアによって制圧されてしまう。ギリシアにおいても、ソクラテスやプラトンが、民主政ではなく一部の有力者による支配の方が望ましいことを主張していた。

しかし、古代ギリシアの後も、世界史に民主主義の断片を垣間見ることはできる。例えば、中世イタリアにおいて神聖ローマ帝国の介入に抵抗したことで有名なフィレンツェやヴェネツィアといった都市国家では、当初その担い手の中心は貴族であったが、徐々に一般市民が力を持ち、独自に代表者を選出していた、といわれる。また、支配者の決定権に楔を打ち込んだという点では、13世紀のイギリスにおけるジョン王に対する抵抗にも民主主義の一面を見ることが許されようか。

設問1 下線部①の古代ギリシアについて、最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ギリシア人は、自らのポリスに所属する者をヘレネス、他のポリスに住む者をバルバロイと呼称した。
- イ ギリシア人は、ネアポリス・マッサリア・ビザンティオンといった植民市を建設した。
- ウ ギリシア人は、デルフォイという神による神託や4年に1度開かれるオリンピアの祭典を通じて民族意識を高めた。
- エ スパルタでは、リュクルゴスの国制のもと、貴金属貨幣を使用し、他国との活発な交易を行っていた。

設問2 下線部②に関連して、アテネの代表的な指導者について、最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ソロンは、債務が払えなくなった市民を奴隷として売買することを禁じた。
- イ クレイステネスは、法を成文化し、法による秩序の維持をはかったことで知られる。
- ウ ドラコンは、平民が政治的発言力を増したために政治的な混乱が生じているとして、部族制度を血縁に基づくものから、地縁に基づくものに改めた。
- エ 僭主であるペイシストラトスは、中小農民などの平民層を虐げたため、追放された。

設問3 下線部③に関連して、前5世紀半ばにペリクレスのもとで実現されたアテネの民主政について、最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 政治に参加する権利は、奴隷や女性には認められていなかったが、在留外人には認められていた。
- イ 都市の規模が拡大し、人口も増加していたことから、直接民主政ではなく代議制が採用されていた。
- ウ 公職者については、将軍など一部を除き、市民からの抽選によって選出された。
- エ 財産額の大小に応じて政治に参加する権利が定められた。

設問4 下線部④に関連して、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ササン朝の時代には、ゾロアスター教の経典である『アヴェスター』が編纂された。
- イ クーダタによって政権を掌握したレザー＝ハーンは、パフレヴィー朝を開き、国名をペルシアからイランに改めた。
- ウ ガージャール朝は、ロシアに敗れて締結したトルコマンチャーイ条約において、ロシアの治外法権を承認した。
- エ サファヴィー朝は、アッバース1世の治世において新たな首都とされたイスファハーンを中心に繁栄したが、バブ教徒の反乱によって滅亡した。

設問5 下線部⑤のマケドニアがテーベ（テーバイ）とアテネの連合軍を破った戦いを以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア イッソスの戦い
- イ アルベラの戦い
- ウ カイロネイアの戦い
- エ テルモピレー（テルモピュライ）の戦い

設問6 下線部⑥に関連して、古代ギリシアの文化について、最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アテネで開催される祝祭では、アイスキュロスやエウリピデスの悲劇が上演された。
- イ パルテノン神殿は、ギリシア建築の中でも優美とされるドーリア式によるものである。
- ウ 万物の根源を火と考えたタレスは、「万物は流転する」との言葉を残した。
- エ プラトンの弟子であるアリストテレスは、ポリスの枠にとらわれない生き方を理想とする世界市民主義を唱えた。

設問7 下線部⑦に関連して、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ザクセン家のオットー1世は、東フランクへの異民族の侵入を退け、イタリアへの遠征を行ったのち、神聖ローマ皇帝となった。
- イ ハインリヒ4世は、叙任権闘争において教皇グレゴリウス7世から破門されたが、のちに謝罪をして許された。
- ウ フリードリヒ2世は、外交交渉によってイェルサレムを回復した。
- エ ハプスブルク家のカール5世は、オスマン帝国と結び、フランス王国との戦争に臨んだ。

設問 8 下線部⑧に関連して、中世都市について述べた次の文章のうち、最も適切なものを以下のア～エから一つ選びなさい。

ア 「都市の空気は自由にする」との言葉が示すように、徒弟は一定の年限を経れば都市で自由に営業をすることができるとされていた。

イ ギルドによる競争の規制は、手工業者の経済的な地位の安定をもたらした。

ウ ミラノやブリュージュは、農業生産に依存せず鉱山開発を基盤に発展した。

エ リューベックやアウクスブルクを中心として結成されたハンザ同盟は、活発な交易により北ヨーロッパ商業圏を支配した。

設問 9 下線部⑨について、最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

ア ジョン王は、第2回十字軍に参加したが、戦費調達のために重税を課したため、貴族が抵抗することとなった。

イ ジョン王は、大憲章（マグナ＝カルタ）に従って、聖職者・貴族・平民の代表者からなる模範議会を開いた。

ウ ジョン王は、大憲章（マグナ＝カルタ）を認めたために、教皇インノケンティウス3世から破門された。

エ ジョン王の子であるヘンリ3世が大憲章（マグナ＝カルタ）に従わなかったために、シモン＝ド＝モンフォールの反乱が起きた。

Ⅲ 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

① 数度の対外戦争をつうじて成立したドイツ帝国は、プロイセン国王が皇帝を兼ねるなど、② プロイセンが主導的な地位にあったが、その反面で、諸邦が独自の権限を保持する連邦体制の国家であった。また、③ 帝国議会は男性普通選挙制を採用しており、権威主義的性格が強い国家でありながら、広範な国民を巻き込んだ大衆政治が進展する可能性も秘めていた。

帝国宰相となったビスマルクは、国民統合を進めるために、1870年代には「④ 文化闘争」を展開し、この政策が不調に終わると、社会主義運動に対する締め付けを強化した。しかし、こうした取り組みにもかかわらず、自身に対する反対勢力の成長を食い止めることはできなかった。

外交面では、ビスマルクはドイツの安全保障を確保するために複雑な⑤ 同盟関係を築き、また、勢力圏拡大を狙う列強の対立を調停して、ヨーロッパ国際秩序の安定をはかった。

この時代のドイツは⑥ 経済や文化が大きく発展し、大国化の道を進んでいった。1888年に皇帝に即位したヴィルヘルム2世は政治に積極的に関与したが、失策を繰り返した。その結果、⑦ ヨーロッパ各国の対立は深まり、⑧ 第一次世界大戦が勃発する原因の一部が生じることとなった。

設問 1 下線部①に関連して、ドイツ帝国の成立にかかわる事件や出来事が古いものから順番に並べられているのは、次の1～4の中のどれか。適切なものを一つ選びなさい。

1 オーストリア＝ハンガリー帝国（二重帝国）の成立 → イタリア王国の成立 → プロイセン欽定憲法の発布 → パリ＝コミューンの樹立

2 パリ＝コミューンの樹立 → イタリア王国の成立 → オーストリア＝ハンガリー帝国（二重帝国）の成立 → プロイセン欽定憲法の発布

3 プロイセン欽定憲法の発布 → イタリア王国の成立 → オーストリア＝ハンガリー帝国（二重帝国）の成立 → パリ＝コミューンの樹立

4 イタリア王国の成立 → プロイセン欽定憲法の発布 → パリ＝コミューンの樹立 → オーストリア＝ハンガリー帝国（二重帝国）の成立

設問 2 下線部②に関連して、プロイセンについて述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 神聖ローマ帝国内のドイツ騎士団領から昇格したプロイセン公国と、帝国外のブランデンブルク選帝侯国との同君連合によって成立した。
- 2 フリードリヒ＝ヴィルヘルム（大選帝侯）は、フランスから亡命したユグノーを受け入れて、国力の増大をはかった。
- 3 フリードリヒ 2 世（大王）はイギリスと同盟してオーストリア継承戦争に勝利し、シュレジエン地方を獲得した。
- 4 ナポレオンとの戦争に敗れた後、国土の全域がライン同盟に編入された。

設問 3 下線部③に関連して、各国の議会制度や投票の事例について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 イギリスでは、第 2 回選挙法改正によってすべての男性労働者が選挙権を獲得したが、この時には女性には選挙権が認められなかった。
- 2 フランスのナポレオン＝ボナパルトと、その甥のルイ＝ナポレオンは、いずれも皇帝への即位に際して国民投票を行った。
- 3 ロシアでは、19世紀後半にアレクサンドル 2 世が大規模な改革を進め、国会（ドゥーマ）を開設したが、その権限は制限されており、選挙制度も不平等だった。
- 4 ノルウェーはウィーン会議によってスウェーデン領になったが、1848年革命の際に国民投票を行い、独立国家となった。

設問 4 下線部④に関連して、この政策によって抑圧を受けた人々として適切とは言えないものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 バイエルンの住民
- 2 プロイセン東部の住民
- 3 カトリック教徒
- 4 自由主義者

設問 5 下線部⑤に関連して、ビスマルクの外交政策について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 フランスのチュニジア支配を支持した。
- 2 ベルリン会議を開いて、ロシアの南下政策を支持した。
- 3 オーストリアの復讐を恐れ、同国の孤立化を試みた。
- 4 ベルリン＝コンゴ会議を開いて、イギリス支配下のコンゴ自由国の設立を認めた。

設問 6 下線部⑥に関連して、ドイツ帝国で展開した文化について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ニーチェは人間存在それ自体に価値を見出し、宗教を肯定した。
- 2 カントは合理主義と史的唯物論を統合しようと試み、観念論哲学への道を開いた。
- 3 コッホらによる細菌学や予防医学が、近代医学の基礎を確立した。
- 4 ヴェーバーは潜在意識に探求の領域を広げ、精神分析学を確立した。

設問7 下線部⑦に関連して、19世紀から20世紀に移行する時期のヨーロッパ各国の関係について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 イギリスは英露協商を結んだが、その数年後に、東アジアでのロシアの進出に備えて日英同盟を結んだ。
- 2 フランスはアフリカの植民地化をめぐるイギリスと衝突し、ファシヨダ事件が発生した。
- 3 ロシアは日露戦争に敗北すると進出方向をバルカン方面に変更し、オスマン帝国やイギリスと和解した。
- 4 イタリアはトリエステやロンバルディアといった「未回収のイタリア」をめぐるオーストリアとの対立を深め、フランスに接近した。

設問8 下線部⑧に関連して、第一次世界大戦について述べた文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 中立国であったスイスへとドイツが侵攻したことで、イギリスは参戦を決定した。
- 2 ドイツ軍はマルヌの戦いでフランス軍に勝利し、これ以降、西部戦線では塹壕戦が続くこととなった。
- 3 タンネンベルクの戦いを指揮した軍人のヒンデンブルクは、後にヴァイマル共和国の初代大統領に就任した。
- 4 戦争中に、イギリス王家はそれまでのドイツ系の名称から、ウィンザー家に改称した。

IV 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

14世紀の初めごろアナトリア西部におこり、後にオスマン帝国とよばれることになる国家は、周辺の君侯国を次々と併合し、また^aビザンツ帝国の領土を侵食しながら、アナトリアでの領土を拡大した。オスマン帝国はさらにバルカン半島にも進出したが、アンカラの戦いで^bモンゴル系の王朝であるティムール朝に敗北し、一時的に勢力を落とした。しかし1453年にコンスタンティノープルを陥落させると、オスマン帝国はここを首都として版図をさらに拡大していった。オスマン帝国の君主はスルタンを名乗ってイスラーム法に基づいた中央集権体制を整え、イスラーム世界の守護者を自認した。

17世紀以降オスマン帝国の領土拡張の勢いは衰え、力をつけたヨーロッパ諸国の前で領土は縮小に転じ、^c周辺諸国への宗主権も失っていった。近代化の改革が進むなかで、宗教や民族の違いを超えて帝国内部の住民を平等に捉えるオスマン主義が唱えられ、その理念が1876年のオスマン帝国憲法にも受け継がれた。dは露土戦争中に憲法を停止したが、20世紀初頭、青年トルコ運動で憲政が復活し、運動を主導した「統一と進歩委員会」のメンバーは^eバルカン戦争ののちに政権を掌握した。このころオスマン主義は次第に後退し、トルコ人の民族主義に訴えて国民の結束強化が図られるようになった。オスマン帝国は第一次世界大戦で敗戦国となり、アンカラで開かれた大国民議会がスルタン制を廃止したことをもって帝国も消滅した。

ムスタファ＝ケマルが率いるアンカラ政府は連合国とローザンヌ条約を締結し、治外法権の廃止と関税自主権の回復を実現した。^fトルコ共和国の初代大統領となったケマルは、第一次世界大戦後に生じた^g国際協調の気運のなかで、国際社会の一員としてのトルコ共和国の地位を固めていった。1930年代に^hヴェルサイユ体制が動揺すると、トルコ共和国は外交において特定の陣営に属することを避けて国の安定を優先させ、第二次世界大戦では末期まで中立を守った。大戦後のトルコ共和国は、NATOやOECDに加入するなど西側諸国との結びつきを強めた。

設問1 下線部 a に関連して、ビザンツ帝国について述べた次の文章のうち、正しい内容のものを一つ選びなさい。

- イ 軍管区の長官に軍事と行政双方の権限を与えるプロノイア制が敷かれた。
- ロ マムルーク朝によってシリアおよびエジプトを奪われた。
- ハ レオン3世が聖像崇拝を解禁したため、イコン（聖像）美術が盛んとなった。
- ニ ブルガリア帝国との間で、領土の争奪が生じた。

設問 2 下線部 b に関連して、ティムール朝について述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ サマルカンドを首都として、トルコ＝イスラーム文化が発展した。
- ロ ブハラ＝ハン国を滅ぼして、ロシア南部に領土を広げた。
- ハ 天文学を発達させ、ウルグ＝ベクにより天文台が建設された。
- ニ ティムールの子孫が北インドに進出し、ムガル帝国の基礎を築いた。

設問 3 下線部 c に関連して、オスマン帝国の領土の縮小あるいは宗主権の喪失について述べた次の文章のうち、正しい内容のものを一つ選びなさい。

- イ 17世紀末、オーストリアはオスマン帝国と結んだカルロヴィッツ条約でハンガリーとベーメン（ボヘミア）を獲得した。
- ロ 19世紀前半、ギリシアはオスマン帝国からの独立運動において列強の支援を受け、独立を達成した。
- ハ 19世紀前半、エジプトはシリア領有をめぐる二度にわたってオスマン帝国と戦い、最終的にシリアを獲得した。
- ニ 19世紀なかば、ロシアは北海沿岸部の支配を目指してオスマン帝国と争い、クリミア半島を獲得した。

設問 4 d に入る適切な人名を次のイ～ニの中から一つ選びなさい。

- イ アブデュルハミト 2 世
- ロ セリム 1 世
- ハ マフムト 2 世
- ニ メフメト 2 世

設問 5 下線部 e に関連して、バルカン同盟の 4 か国の組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- イ ギリシア、セルビア、ブルガリア、モンテネグロ
- ロ アルバニア、ギリシア、セルビア、ルーマニア
- ハ ブルガリア、ボスニア、モンテネグロ、ルーマニア
- ニ アルバニア、セルビア、ブルガリア、ボスニア

設問 6 下線部 f に関連して、トルコ共和国が実施した政策にあてはまらないものを次のイ～ニの中から一つ選びなさい。

- イ カリフ制廃止
- ロ トルーマン＝ドクトリンの受け入れ
- ハ アラブ連盟（アラブ諸国連盟）への加盟
- ニ 文字改革

設問 7 下線部 g に関連して、第一次世界大戦後の国際協調について述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ アメリカの主導でワシントン会議が開かれ、日本を含む五大国間で海軍軍備制限条約が締結された。
- ロ ドーズ案によってドイツの賠償支払いの負担は軽減され、アメリカ合衆国資本がドイツに流入した。
- ハ 国際紛争解決の手段として武力行使をしないことを定めた不戦条約が、フランス外相ブリアンとアメリカ国務長官ケロッグの主導により締結された。
- ニ イギリス、フランス、イタリアなどがロカルノ条約に調印し、フランス軍のルール地方からの撤退とドイツの国際連盟への加盟を取り決めた。

設問 8 下線部 h に関連して、ヴェルサイユ体制の動揺を示す現象について述べた次の文章のうち、正しい内容のものを一つ選びなさい。

イ イギリスやフランスがブロック経済の構築を進めたため、アメリカは棍棒外交によって強権的にドル＝ブロックの構築を急いだ。

ロ ナチスの一党独裁体制となったドイツは、徴兵制の復活と再軍備を宣言したのち、ザール地方に侵攻した。

ハ エチオピアへの侵攻を開始したイタリアに対し国際連盟は経済制裁を決議したが、イタリアは侵攻を続け、エチオピアの併合を宣言するに至った。

ニ スペインではイギリスの軍事支援を受けた人民戦線政府と、ドイツとイタリアの軍事支援を受けたフランコ将軍率いる反乱軍との間で内戦が勃発した。

V ローマ帝国により迫害を受け、ディアスポラ（離散）の状況にあったユダヤ人は、第二次世界大戦後、アラブ人が居住していたパレスティナに再び自らの国家を建設する。ユダヤ人にとってこの土地のもつ意味を示しながら、第一次世界大戦中から建国宣言に至るまでの経緯を、下記の語句をすべて用いて、250字以上300字以内で説明しなさい。なお、句読点、数字は1字に数え、指定の語句には必ず下線を付しなさい。

シオニズム運動

バルフォア宣言

委任統治領

国際連合

[以下余白]

